

【道教委】
北海道教育
推進計画

〈施策の柱1〉
子どもたち一人一人の可能性を
引き出す教育の推進

〈施策の柱2〉
学びの機会を保障し質を高める
環境の確立

〈施策の柱3〉
地域と歩む持続可能な教育の実現

【宗谷局】
重点

【重点】 **資質・能力を確実に育成する学力保障**
～OVER70の実現 12年間継続する学力保障～

重点推進のポイントと施策を踏まえた具体的な取組

1 授業改革 ◆新しい時代に必要となる資質・能力の確実な育成

- ①資質・能力を明確にした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革の推進
- ②ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
～個々の興味・関心・意欲等を踏まえて、きめ細かく指導・支援することなど1人1台端末を活用した学習活動の充実～
- ③生徒指導の3つの機能を生かした授業づくりの推進～教科の指導と生徒指導の一体化～
- ④学びに主体性をもたせる家庭学習の推進

2 学校経営 ◆教育課程の決定

- ⑤校長の方針に基づき、教職員が具体のアイデアを策定し、組織論議を経て精度を上げる仕組みの構築
- ⑥教育課程を円滑に進めるために、校長の意思決定が効果的に働く学校組織の構築の推進～「選択と決断」～
- ⑦全国学力・学習状況調査の結果等を系統的に分析し、学力向上に向けた教育活動の検証と改善に全ての教職員が一体となって取り組む組織づくりの推進～カリキュラム・マネジメントの充実～
- ⑧学力の3層に対応した柔軟な教育課程の編成、実施

3 検証改善 ◆OVER70実現

- ⑨学びの機会を保障し質を高める環境の確立～義務教育の機会均等、水準の確保～
- ⑩教育課程の実施状況を的確に評価し、その改善を図る検証改善（PDCA）サイクルの充実
- ⑪客観的調査結果等の分析に基づき、学力の3層に確実に対応する授業（教育活動）を展開する教育課程の改善・充実

4 働き方改革 ◆学校本来の役割

- ⑫教員一人一人がワークライフバランスの視点と勤務時間を意識し、勤務時間内で学校本来の役割を果たすことができる組織体制の構築
- ⑬コアチームを中心とした業務改善の推進による、児童生徒の学力保障の実現

5 小中高12年 ◆小・中・高の連続性・継続性

- ⑭中学校区における小・中9年間一貫した教育課程の編成へ向け、小・中合同研修会等を実施し、学習状況の成果・課題の明確化
- ⑮スクール・ミッション/ポリシーを踏まえた12年間の一体的な学力保障の実現
- ⑯地域住民等が理解・参画する学力保障

学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実

協働体制

【設置者における指導・助言・確認の観点】(例)

- 求められる資質・能力を身に付ける授業改革の推進
- 教育課程の不断の見直し
- 到達（数値）目標を設定した客観的調査等の取組と分析
- 業務改善状況の把握、数値目標を設定した時間外勤務の縮減
- 地域住民へ学力の状況等の説明・協議会の設定

【家庭・地域】

- 学習習慣、生活習慣の確立
- 学びのセーフティネットの構築
- コミュニティ・スクールと地域学校協働本部への地域住民の主体的な参画
- 地域住民に対する学力の状況等、地域の教育課題の説明・協議会への参加
- 社会教育施設等を活用した地域住民による児童生徒の学びの場の創出